

4/14未分

シリーズ 維新の会 その実像は

■「核共有」を叫ぶ

「核」をめぐる維新関係者の発言

石原慎太郎
共同代表（当時）

「核武装を議論することもこれからは選択肢」
「日本は強力な軍事国家、技術国家になるべきだ」
（2013年4月5日付「朝日」）

「核保有国に核を放棄せざるには、極めて諦め合いが実現するわけがない」。非核保有国が核を保有し、同時に放棄を迫る。交渉術の日本。（16年11月14日、ツイッター）

「日本の核についても議論すべき」（17年8月3日、ツイッター）
「日本も核シェアリング（共有）の議論は絶対に必要だ」
（22年2月27日、テレビ番組）

高下龍氏
(維新的公認記者)

「我が國の安全保障環境整備に核保有を含めたダブルなき議論が必要」（16年5月14日、ツイッター）

「非核三原則は歴史80年弱の価値観だが、核を持つ国が戦争を仕掛けている。昭和の価値観のまま命和もいくのか」
「米国の原子力潜水艦をリースしてもらうというよう議論をすべき」（22年2月28日、会見）

松井一郎代表

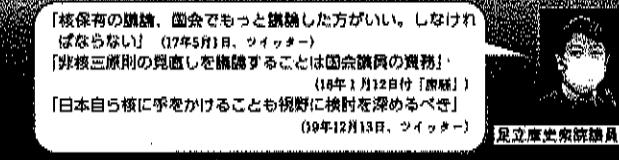
「核保有の議論、国会でもっと議論した方がいい。しなければならない」（17年5月1日、ツイッター）

「非核三原則の見直しを議論することは国会議員の責務」
（18年1月12日付「朝日」）

「日本自ら核に手をかけることも視野に検討を深めるべき」
（09年12月13日、ツイッター）

矢野義昭参院
比例候補（当時）

「日本は独自の核抑止能力を持つことを真剣に考えなければならない」「潜水艦に弾道ミサイルを載せ、それを深海に沈めておく。原子力搭載型の弾道ミサイルを持つ。これが日本にとって一番よい選択」
（16年6月26日、フェイスブックの投稿動画）



足立康史衆院議員

被爆国の政党資格なし

安倍政に呼応

ロシアのウクライナ侵略と「核」による威嚇に乗じて、日本でも「核共有の議論を」と叫ぶ日本政府の会。被爆者の強い批判などを受け、説明も口にしていますが、過去の運動からはさらにも意図的な説得ががかり上がってきます。（鶴田洋）

公然と「核武装」を主張

石原氏と共に

日本が「核保有」をめぐる議論をするのに、核保有国が核保有を保有し、同時に放棄を迫る。交渉術の日本。（16年11月14日、ツイッター）
「日本の核についても議論すべき」（17年8月3日、ツイッター）
「日本も核シェアリング（共有）の議論は絶対に必要だ」（22年2月27日、テレビ番組）

批判に動搖も

ウクライナ危機を利用する



議論の余地 ありません

新たな政治団体「維新の会」が議論をめぐる議論をするのに、核保有国が核保有を保有し、同時に放棄を迫る。交渉術の日本。（16年11月14日、ツイッター）
「日本の核についても議論すべき」（17年8月3日、ツイッター）
「日本も核シェアリング（共有）の議論は絶対に必要だ」（22年2月27日、テレビ番組）

ロシアのウクライナ侵略と「核」による威嚇に乗じて、日本でも「核共有の議論を」と叫ぶ日本政府の会。被爆者の強い批判などを受け、説明も口にしていますが、過去の運動からはさらにも意図的な説得ががかり上がってきます。（鶴田洋）